SYOHEI ニュース　令和２年６月号

市立病院・診療所紹介：総合水沢病院

総合水沢病院は、昭和26年５月に胆沢地方国民健康保険町村組合水沢病院として開設され、昭和45年10月に水沢市国民健康保険総合水沢病院に、平成18年２月奥州市施行の際に、奥州市総合水沢病院に名称変更しています。

一般病床145床、感染病床４床
標ぼう診療科は、内科、循環器内科、神経内科、外科、整形外科、精神科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科、麻酔科

菊池院長から、「当院は市立病院として常に市民目線を意識した、垣根のない、そして融通性のある医療を目指そうと考えています。昨今の少子高齢化・人口減少に対応して地域の医療施設と密に連携しながら、ある部分では急性期医療を担いつつも主に回復期から在宅医療、更に介護支援などにも力を入れていく方針です。
そしてそのために我々医療スタッフはさらなる研鑽を積んで技術を高めていかなければならないと考えています。最終的には市民がこの住み慣れた地域で少しでも安心して暮らせるような医療を心がけたいと思います。」とのコメントをいただきました。
奨学生や養成医師の皆様、是非、病院見学をお待ちしています。

連絡先：総合水沢病院

〒023-0053　岩手県奥州市水沢大手町３-1
TEL0197-25-3833　FAX0197-25-3832
http：//www.mizhsp-iwate.jp/

医師養成事業解説コーナー

義務履行中の大学院等での週１回の専門研修

奨学金養成医師のキャリア形成支援の一環として、奥州市立病院等に勤務しながらキャリア形成のため必要と認める場合は、週１回専門病院や大学病院等での研修を認め、その間も義務履行と見なすこととしました。

この取り扱いは、令和２年度採用奨学生だけでなく、既に養成医師なられた皆様にも適用することとしています。

奥州市紹介コーナー：南部鉄器

国の伝統的工芸品として指定を受けている「南部鉄器」は、平泉文化の遺産として平安時代末期から続く伝統に支えられ、優れた鋳物師たちの手により、豊かな感性と高い芸術性が継承され続けています。

「鉄瓶」に代表される工芸品は、素朴な味わいと艶やかな美しさを持っています。最近では、街路灯や欄干など都市景観の素材として注目されるほか、レリーフやモダンアートの分野においても多くの優れた作品が生み出されています。急須など実用品は、デザイン性も高く、おしゃれなキッチン雑貨として人気を集めています。

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和２年６月　　日発行　奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町３-1　TEL0197−25-3833

奥州市紹介　郷土の偉人　孤高の政治家　斎藤　實　（1858年～1936年）

齋藤 實（さいとう まこと）は、1858年〈安政５年〉現在の奥州市水沢吉小路に生まれた。1932年５月　第30代内閣総理大臣就任

幼い頃の名前を富五郎といい、志をいだいて上京するまで吉小路の生家で育ちました。少年時代から、後藤新平(4月号で紹介)、山崎為徳らと共に、水沢の三秀才といわれるほどの勉強家でした。

15歳の春に上京すると働きながら勉強に励み、翌年海軍の学校へ入学しました。18歳の時に同姓同名の水夫と混同されるのを避けるため實と改名し、その後優秀な成績で卒業しました。

27歳の時選ばれてアメリカに４年間留学、この間にアメリカやヨーロッパの情勢を学んで帰国しました。41歳で海軍次官に抜擢され、以後軍政家の道を歩むことになり、日露戦争後49歳の時から８年余り海軍大臣をつとめました。

62歳のとき、原敬(岩手県の生んだ初の宰相)内閣から任命されて朝鮮総督になりました。赴任の時京城(ソウル)駅前で暗殺をねらった爆弾を投げられる等険悪な民族感情のときでした。斎藤實は10年余りの在任中を通して、いつも温容に人々に接して民生の安定に努めました。

５・15事件以降の難局では75歳で内閣総理大臣を拝命、「自力更生」をモットーに２年余り国内諸問題解決のために尽力しました。

斎藤實は戦後民主主義を形成する上で大きな意味を持つ事となる大正デモクラシーや国際協調の精神を大切にし、当時勢いづいていたファシズムや軍国主義に対する防波堤としての役目を果たそうと努めていましたが食い止めきれず、内大臣を拝命した翌年の昭和11年、2・26事件の凶弾に倒れ、79歳で生涯を閉じました。

齋藤實が総理大臣としての心構えを書にしたためた言葉

『忍耐は人の宝なり　人に接するには　調和を旨とし　謙譲なる態度を忘るべからず　優越観念は深く自己の胸底に収め　他に対しては平凡中庸を以てし　自然に他をして敬服せしむるを要す』

奥州市水沢には、旧宅も現存しています。昭和７年に誕生地に建てられたもので、郷里の人々のためにと文庫閲覧室も設えられています。春子夫人が昭和20年東京から水沢に疎開し、昭和46年亡くなるまで住まわれた。敷地、旧宅、書庫や多数の遺品は遺族から水沢市(現奥州市)に寄贈され、展示館が完成した昭和50年に「斎藤實記念館」が開館しました。

「斎藤實記念館・展示館」入館料は200円です。
〒023-0054 岩手県奥州市水沢区吉小路24
電話　0197-23-2768
開館　９時から16時30分（毎週月曜日と年末年始は休館。）
新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館となることがあります。